

尾八重

O H A E

ひえつき節発祥の地



地区の概要

尾八重地区は松木、横野、上福良、瀧・春山の4集落から構成されており、人口は約60名です。扇山の登山口があり、5月には山開きのイベントが開かれます。ひえつき節発祥の地であり、民謡の継承活動が盛んです。また、地区独自の運動会も開催されています。



地区の未来像

誰もが住みたくなる尾八重地区



作成の過程

地区住民なら誰でも参加できるワークショップ「尾八重みらい会議」を2回行いました。その後、公民館長や役員会などの皆さんと打ち合わせを行い、地区住民による内容の校正を経て完成しました。



プロジェクト

01 ひえつきの里大運動会の活性化

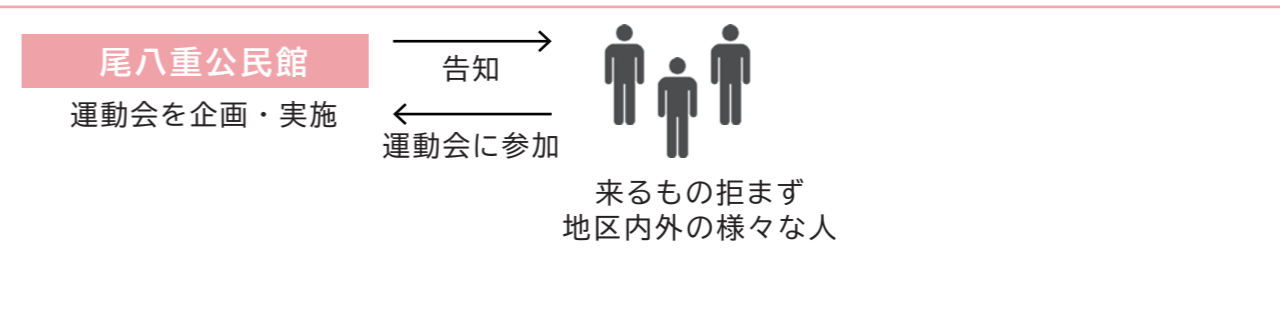
概要

村外の子どもや孫、他地区の住民、移住者などたくさんの人に楽しんでもらえるように、運動会の内容や景品などを改善し、案内状を出す。午前中に運動会を行い、午後には交流会をする。

目的

地区独自の運動会を毎年実施しているが、尾八重小学校があった頃は子どもたちや先生たちがいてにぎやかだった。村外に出ている子どもや孫をはじめ、たくさんの人に来てもらえるように運動会を改善したい。

実施体制



プロジェクト

02 扇山で おもてなしプロジェクト

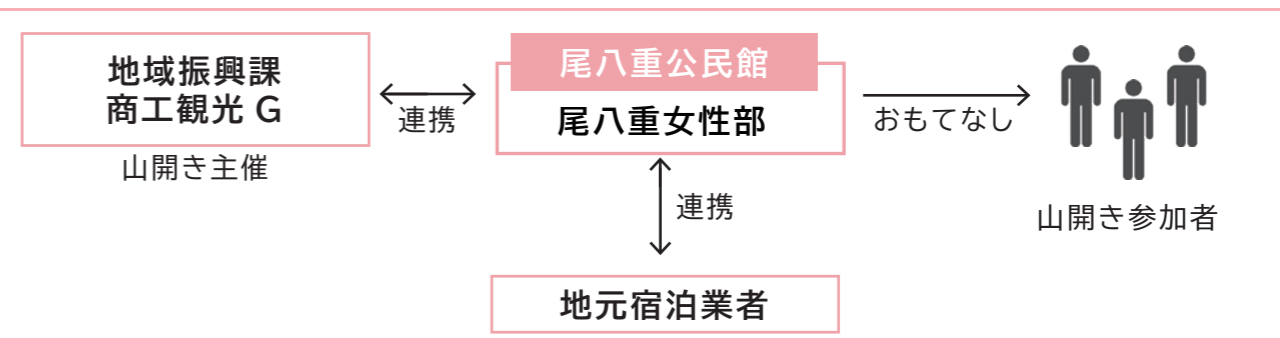
概要

毎年5月に役場が実施する扇山の山開きイベントで、参加者へのおもてなしや産物の販売を行う。

目的

扇山を活かして交流人口を増やしたい。

実施体制



03 地区民で楽しめる サロンの会

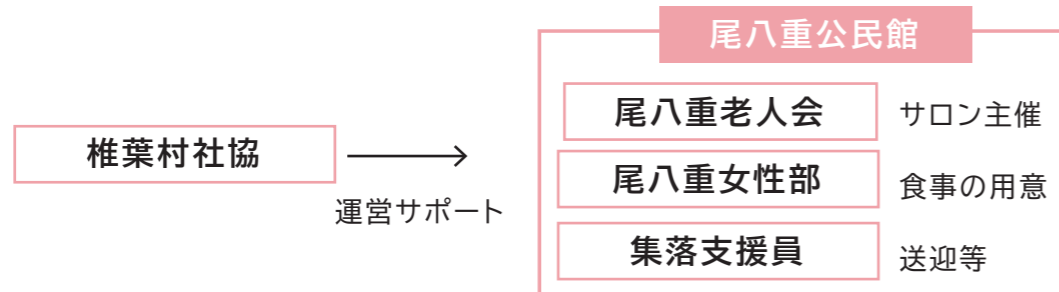
概要

地域民が広く参加できるサロン（仮称）を公民館で自主開催する。

目的

社協主催で老人会を主な対象にしたサロンが定期開催されているが、他の地区民も参加できるような取り組みをしたい。

実施体制



メモ

地域住民の声



館長の想い
椎葉 里美（しいば さとみ）

昭和 63 年に尾八重小学校が廃校になってから数十年の時が経ちましたが、「こんなに人が少なくなるとは思わなかった」というのが正直な気持ちです。今思い返せば、「あの頃ももっとこうしておけば良かった」と思うこともあります。先のことはいつだってわかりません。だからこそ、今しっかりと地区の将来を考えていく必要があると思っています。

今回話し合ったプロジェクトの一つとして、ひえつきの里大運動会では、地区内外の子どもや大人たち、訪れる旅行者など受け入れる間口を広くして、来てくれる人誰にも楽しんでもらえるような工夫をしていきたいです。

尾八重は他の地区に比べても人口が少なく、自分たち以外の人巻き込んでいかなければ何をやるにも難しい面があります。だからこそ、地区外の皆に来てもらい、皆と共存していくという心構えを持って取り組むと考えています。

新しいことを始めるのはとても大変なことです。しかし「誰もが住みたくなる尾八重地区」という未来像をただの言葉とせず、この尾八重を次の世代に渡すために皆でどんどん議論し、協力し合っていきたいです。

尾八重

30 年以上前に椎葉へ嫁いできましたが、尾八重は子育てをするにはとてもいい環境でした。子どもたちも地域の人に見守られながら、安心してのびのびと育ったのではないかと思います。また、村外から移り住んだ者としての「外から見た椎葉村」は、地元出身の人が「こんなもんが」と思うものでも、本当はすごく価値があるという感覚があります。そういったものを大切にしたいという思いもあって、最近では椎葉村の観光ガイドの勉強を始めました。

尾八重地区では女性部の活動を長年続けていますが、今回のプロジェクトに取り組む上で、私の中にある一番の願いは「ここに住んで楽しみたい、助け合いたい、今いる人を楽しませたい」ということです。

人が少なくなっても、自分たちの住む場所は変わりません。その中でどうやって自分たちが楽しめるか。これまでお世話になってきた年長者の方たちにも、一緒に楽しんでもらいたい。そんな気持ちを原動力として、まずは、今いる人を幸せな気分させたいし、私もそうありたいと思っています。



椎葉 留美（しいば るみ）